

研究テーマ	概要
	<p>供試材 小径木の乱尺材、根曲り材、及びフローリング不適材、製材製品（原板）はフローリング原板寸法とする（JAS）規格</p> <p>(1)乾燥は含水率9%~11%にしたものを室内にて養生期間3日~4日とし12%~14%までに調整した。 (2)加工法として、フィンガージョイント工法を取入れる。 (3)ジョイント（接合）部分は治具を作製しエアークランプ2K圧とし接着剤にて固定加工を加えた。 (4)JAS規格に基づいて加工し製品は長さ2m~3mとした。</p> <p>3.結果 根曲り材、乱尺材からの原板だけに乾燥及び養生期間に若干の問題がのこされたが、3m以下の製品としては強度的にも、狂いの度合から見ても今後十分に製品化ができ、又製品のコストとしても安価な材料で付価値の高い製品ができ大きく業界への普及するまでに至った。</p>
<p>13. 竹材の利用面の開発研究</p> <p>鎌田 正義 大西 洋</p>	<p>1.目的 小径孟宗竹、布袋竹、枝条等を製品化し、更に高度利用を検討し、その製品を普及することを図る。</p> <p>2.概要 従来製品として造られているが、最近の建築様式の変化に共い、デザインを検討し構造的強度を保持するため、間伐材5年~7年生の一部を利用して試作した。</p> <p>(1)袖垣 庭園用として間伐材丸太材を支柱とした枠組構造として布袋竹、枝材を併用して試作した。 (2)玄関用装飾袖垣として間伐材の丸太、角材を柱として孟宗竹の割材を併用して試作した。</p> <p>(1)涼み台 小径孟宗竹材を主材とし強度を保持するため、構造的に検討を加え試作した。 (2)解体式涼み台 構造的に強度を保持するため、主材料は小径木を丸棒にして5cm~6cm径とし各々の工法を取入れ解体式として試作した。</p> <p>3.結果 今回の試作は各々の製品の構造、デザインの分野から見て問題がのこされたが、製品はコスト的にも安価な材料で付価値の高い製品として実証され充分期待できることが得られた。</p>
<p>14. 旋削加工技術の研究と試作</p> <p>末吉 光雄</p>	<p>1.目的 旋削の加工技術は素材の特性によって対応の方法が異なるようである。そこで各材種ごとに具体的に製品を試作することによって加工方法を確かめ、旋削加工の技術安定をめざすことがこの研究のねらいである。</p> <p>2.概要 本年度は基本的な材料特性をつかむため、広葉樹材、針葉樹材とに分けてそれへの加工に対する技術を主体に、次の項目について、試作研究を行なった。</p> <p>1.使用材の加工と製品効果</p> <p>(1)クス材 屋久杉材に対する旋削度</p> <p>イ 板目面の加工 ロ 木口面の加工 ハ 厚材、薄材に対する刃物の調整</p>